会議報告

さけます報告会

髙橋（たかはし）　昌也（まさや）（水産資源研究所さけます部門　資源増殖部）

はじめに

「さけます報告会」は，さけます類のふ化放流を科学的かつ効果的に推進し，ふ化放流技術等の普及や改善を促すことを目的に，2016 年から毎年開催して来ました。新型コロナウィルスの影響により，2020 年，2021 年と 2 年連続で開催を見合わせましたが，2022 年から Web 中継視聴による参加を併用する形で再開し，2023 年も同様の形で開催しました。

今回は，さけますふ化放流事業に関係する行政機関，試験研究機関，増殖団体，漁業者，当機構内関係部署等 280 名（会場参加 156 名，Web 参加 124 名）の参加の元，2023 年 8 月 9 日に札幌市を会場として開催しました。主催者である水産資源研究所さけます部門（以下，さけます部門）越智部門長の挨拶に続き，来賓を代表して水産庁増殖推進部栽培養殖課の柿沼課長からご挨拶をいただいた後，6 つの課題について報告を行いました。

1. 2022（令和 4）年漁期におけるサケ資源状況について

さけます部門資源生態部の本田部長から，同日午前に開催された「さけます関係研究開発推進会議」における昨年漁期のサケ資源状況にかかる議論の概要が報告されました。詳細については，本誌「さけます関係研究開発推進会議」の項を参照下さい。

写真 1. 全景

写真 2. 主催者挨拶：さけます部門　越智部門長

写真 3. 来賓挨拶：水産庁栽培養殖課　柿沼課長

写真 4. さけます部門　本田資源生態部長

2.　北太平洋におけるさけます資源状況と 2021（令和 4）年夏季ベーリング海調査結果

さけます部門資源生態部資源管理グループの佐藤グループ長から，北太平洋における 2022 年のさけます類の商業漁獲量は前年よりも 29.0 万ト

ン少ない 71.0 万トンとなったこと，カラフトマスの漁獲量は 25.9 万トンで 1995 年以降最低となったこと，ベニザケの漁獲量が 21.5 万トンとなり，1965 年以来 57 年ぶりにサケの漁獲量（21.3 万トン）を上回ったこと等が報告されました。

また，2022 年のベーリング海調査では，サケの採集尾数は過去平均を上回り，尾叉長分布からの推定では 2 年魚が多く，採集尾数が最も多かった 2011 年の調査結果と酷似していたこと，採集したサケの起源を遺伝学的手法で推定した結果では，ロシア系が 69.4%で最も多く，次いで日本系が 26.2%であったこと等が報告されました。

写真 5. さけます部門　佐藤資源管理グループ長

3. 今年の秋サケ来遊見通しについて（北海道）

北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場さけます資源部の藤原部長から，2022 年の全道への秋サケ来遊数は 3,347 万尾であり，7 年ぶりに 3,000 万尾を上回ったこと，年齢別に見ると 4 年魚（2018 年生まれ）が 2,368 万尾と 5 カ年平均（2011-2015 年生まれ）と同水準まで回復した一方，5 年魚（2017 年生まれ）は 5 カ年平均の 15%程度にとどまったこと，3 年魚（2019 年生まれ）は 728 万尾と平成以降で最も多かったことが報告されました。また，2023 年の来遊見通しは，近年の回帰年齢の若齢化傾向を考慮し，4 年魚が昨年と同程度，5 年魚は 5 カ年平均の 6 割程度となり，全体では 3,483 万尾と，前年を若干上回る見込みであること等が報告されました。

写真 6. さけます・内水面水産試験場　藤原さけます資源部長

4. 採卵現場における防疫対策（採卵廃液処理）について

さけます部門資源増殖部技術課の日田主任技術員から，採卵現場で親魚から放出される体腔液や血液などの「採卵廃液」に存在する病原体が他の魚への水平感染を引き起こすリスク，それを防ぐための採卵廃液の殺菌処理の有効性，殺菌剤（次亜塩素酸ナトリウム）を用いた殺菌効果の検証結果および作業負担の少ない具体的な処理方法等が報告されました。

写真 7. さけます部門技術課　日田主任技術員

5. みんなが幸せになるために：なぜ野生魚は重要な存在なのか？

さけます部門資源生態部資源管理グループの佐橋研究員から，サケおよびサクラマスの両種において，ふ化放流に用いる親魚に含まれる野生魚の割合が高いほど，その子供の野外における生存率（河川回帰率）が高くなるという研究結果と，野生魚の保全によってもたらされるメリット（自然産卵による資源添加，ふ化放流魚の回帰率向上，

写真 8. さけます部門資源管理グループ　佐橋研究員

多様性の維持による資源の安定等）等が報告されました。

6.　サケの回帰率向上を目指した放流手法の改善に関する取り組み

さけます部門資源増殖部八雲さけます事業所の松波技術員から，同事業所の放流河川である遊楽部川における耳石標識魚の回帰結果，沿岸環境調査および河口域における稚魚の降下状況調査の結果から導き出されたより効果の高い放流手法と，それを実行するために取り組んでいる民間の遊楽部ふ化場との連携の概要が報告されました。

写真 9. さけます部門八雲さけます事業所　松波技術員

アンケート結果

さけます報告会をより充実させていくため，会場での参加者を対象にアンケート調査を実施しました。「業務に役立つ内容だったか」との問いに対し，「はい」と答えた人が 45%，「まあまあ」と答えた人が 46%，「あまり」「いいえ」と答えた人が 7%でした。「今後取り組むべき研究開発課題やさけます報告会への意見・要望」に関しては，「本州におけるサケ回帰率の改善に関する調査研究」，「野生魚が生存率を向上させる具体的な理由の解明とそれを応用した人工ふ化放流技術の開発」，「回帰年齢や回帰親魚の魚体サイズの変化の原因解明」，「Web 中継併用での開催の継続」等の意見をいただきました。これらについては，今後の研究開発や報告会の運営に役立てたいと思います。

おわりに

今回のさけます報告会は，昨年に引き続き Web 中継を併用した形式での開催となりましたが，開催案内時の不手際で一部の参加希望者の方にご迷惑をおかけしてしまいました。この場を借りて深くお詫び申し上げます。うまく行かなかった部分については反省しつつ，皆様から寄せられたご意見・ご要望を踏まえ，今後もさけますに関する様々な情報交換の場として内容を充実させながら，開催して行きたいと思います。

なお，今回の発表に関する資料は，当機構のホームページ上で公開しております(https://www.fra.go.jp/shigen/salmon/sakehou.html#R05)。詳しい内容についてはそちらを参照下さい。